

ように、この種の観測結果がさらに集積されることによって局地気象のモデルが出来上がってくるので、今後多くの観測が各地で実行されることを期待する。

また実習教材の立場としては、同時観測のみでは全部失敗する恐れがあるので、任意時観測と平行して行なうほうがよく、そのためにもレプリカ液のアンブルによる配布が必要である。またその解析結果はできるだけはやく全生徒に還元されるところに理科教育における意義があり指導上望ましい。

7. 謝 辞

この観測をすすめるにあたり、共成製薬株式会社、小樽潮陵高校地学クラブ、小樽測候所等の御協力を、また同校理科担当の教諭であられた松木光治・小黒淳達・真島昭三の諸先生の便宜を、さらに解析にあたっては北海

道大学理学部の孫野長治教授の御指導を賜った。深く感謝の意を表す。

8. 引用文献

- 小沢行雄・吉野正敏, 1965: 小気候調査法, 古今書院, 160頁。
 河村 武, 1961: 北海道における冬季の降水分布の総観気候学的考察, 地理学評論34 (11), 583~595頁。
 草野和夫, 1960: 宮城県気流について, 研究時報, 17, 709-718。
 R.S. SCORER 1958: Natural Aerodynamics. Pergamon Press 246, 247。
 中島暢太郎, 1967: 天気, 14 (12), p 406。
 宮沢清治, 1966: 1957年12月29日~31日の北陸不連続線による大雪について, 研究時報, 12, 370-401。

気象学会および関連学会行事予定

下記カレンダーは気象学会主催の大会・例会・講演会・シンポジウム(支部主催も含む)、気象学会共催・後援の講演会など、天気紙上に公示されたもの、あるいは講演企画委員会・天気編集委員会で情報を入手したものをまとめたものである。今後、毎月の天気紙上に掲載する予定であるが、掲載もれがないようにしたいので、会員各位の御協力をお願いしたい。

講演企画委員会・天気編集委員会

行 事 名	開催年月日	主催団体等	場 所
昭和45年度日本気象学会秋季大会	昭和45年10月27~29日	日本気象学会	京都教育センター
高層気象シンポジウム	〃 10月23日	〃	気象庁第1会議室
大気汚染に関するシンポジウム	〃 10月24日	日本気象学会北海道支部	室蘭市役所
福岡管区気象研究会	〃 11月11日	日本気象学会福岡支部, 福岡管区気象台	福岡管区気象台会議室
集中豪雨シンポジウム	〃 11月13日	気象研究所・福岡管区気象台	福岡管区気象台会議室
気候変動シンポジウム	〃 11月27日	日本気象学会	気象庁
北海道支部研究発表会	〃 12月3日	日本気象学会北海道支部, 札幌管区	札幌管区気象台会議室
春季講演会	昭和46年2月~3月	日本気象学会	海洋研究所(予定)
第7回災害科学総合シンポジウム	昭和45年11月9, 10日	災害科学総合研究班(気象学会後援)	京大防災研究所
第17回風に関するシンポジウム	〃 12月10日	日本気象学会外8学会	気象庁講堂